

旭陵倶楽部

第16号

発行責任者：木村 康則
編集長：西村 一成
編集委員：明石 彰
市丸 修次
発行日：平成18年6月24日

平成18年度テーマ

『あの日に帰りたい…
関中・西高がやってくる』



《平成18年1月2日撮影》

平成18年1月7日

我ら西高OBにとっても故郷下関のシンボル
だった下関駅舎が焼失！
あの青春時代の楽しかった日々を思いを
馳せて…。



CONTENTS

■ 下関NOW	...	Page 1・2
✚ ご挨拶	...	Page 3
◆ メッセージ	...	Page 4
■ 新旧幹事代表挨拶	...	Page 5
👤 恩師からの便り	...	Page 6
👤 支部便り	...	Page 7
* クラブ活動	...	Page 8
👤 大学生OBメッセージ	...	Page 9

# 73期コラム	...	Page 10
★ 同期便り	...	Page 11
△ 旭陵ゴルフ会	...	Page 12
● 各期代表世話人	...	Page 12
◇ 広告のページ	...	Page 13
♪ 東京支部だより	...	Page 14
✂ 支部総会のご案内	...	Page 15

1. 合併その後

下関市は、平成17年2月13日豊浦郡4町と合併し、待望の30万都市(H12 国勢調査 301,097人)となり、同年10月1日には函館市とともに中核市に移行し、名実とも地方中核都市の仲間入りをしました。中国地方でも5番目の人口を持つ都市となりました。合併による大きな変化としては、市役所が一つとなり4つの役場はそれぞれ総合支所となりました。また議員は2年間の在任特例により現在104名の大所帯となっています。

さて、今年の話題としては新市の総合計画を策定することとともに、新しい市役所の位置を決める新庁舎建設候補地検討委員会の答申も出るようになってきました。現在の市役所は今までどおり唐戸にありますが、老朽化した市役所を10年以内に建て替えるべく合併後の位置を検討するもので、合併協議では新下関周辺と付帯意見もでており、今後大いに議論が沸騰しそうです。また、現市議の任期は来年2月12日までなのですが、今年の3月議会で市議の定数を38名とする条例案が可決され、今年から来年にかけて次期市議を目指す方々は大変忙しい年といえそうです。



《長州砲》



《下関角島》



《義経知盛像》

【下関 NOW ~ご存知ですかいまの下関?】

2. 交通

交通面でも最近の下関市は話題の山です。昨年の後半からそのニュースを追ってみましょう。

①彦島有料道路が無料化されました。(17.9.30)

30年間の有料期間を経てついに昨年秋無料化が実現しました。これにより彦島西山地区と金比羅・武久・山の田地区は一気に近くなり、庶民のバイパスになりました。

②下関駅舎が焼失しました。(18.1.7)

74歳の放火犯により昭和17年11月14日開業以来63年余り下関市民のシンボルだった三角屋根の駅舎は、たった3時間で焼け落ちました。完全復旧は相当の日数がかかると思われたものの駅機能が集中していた駅ホーム下の構内は焼失しなかったため、営業は奇跡的に翌日には復旧しました。旅行窓口や市民サービス機能などは今年の8月13日の関門海峡花火大会までに仮設復旧が計画されておりますが、今後の駅舎再生に向けての計画も注目されます。

③新北九州空港ができました。(18.3.16)

今年3月16日、新北九州空港ができました。東京便は、以前の4便から17便に増え、また東京からの出発時間も夜11時台まであり、とても便利になりました。下関への交通アクセスとしては、空港バスが便利です。下関駅との往復便が8便、小倉駅との往復便が18便ありますので、山口宇都空港とともに行きと帰りで使い分けなど大いに活用が期待されています。

④下関北バイパスが一部開通しました。(18.3.19)

市中心部と山陰方面との交通渋滞の解消策として長年の懸案だった下関北バイパスが3月19日に一部区間(汐入町~武久町1.1km)で開通しました。全線開通にはまだ期間がかかりそうですが、市街地から山陰側は川中、綾羅木、安岡と急速に宅地化が進み、市内でも人口増の地区となっており、渋滞解消に大いに貢献するものです。

⑤下関ナンバーが10月10日から導入されます。

長年の懸案がまた1つ今年実現します。山口県内の自動車のナンバープレートは「山口ナンバー」一つでしたが、昨年7月末、国土交通省は各地から要望のあった地域名ナンバーを全国で18地域認める発表をし、「下関ナンバー」も認められました。このため、今年10月からは、下関地域の新規登録車や、登録変更の車は「下関ナンバー」となり、東京でも見かけるようになると思います。下関ナンバーは下関の存在を東京だけでなく全国各地にアピールする広告塔にもなりますので大いに期待下さい。(18ナンバー：仙台、会津、つくば、那須、柏、成田、川越、金沢、伊豆、岡崎、堺、倉敷、豊田、一宮、下関、諏訪、高崎、鈴鹿)



《下関ナンバー(見本)》

祝 平成18年度 旭陵同窓会東京支部総会

第52期生の当番幹事就任を心からお喜び申し上げます。
50歳からも東京での新たなご活躍を期待いたします。

下関市役所 旭陵第52期生一同

観光振興課	中西安春	下関市立中央病院	面田 務
情報政策課	大崎信一	下水道管理事務所	原田 洋
南部農業委員会	藤井武史	商工振興課	高原祐二
保健部総務課	矢田友昭		

野川 (52期)
代表 小川
有バナーデザイン
203-0044
TEL/FAX/0424-78-6563
nob-o@icom.home.ne.jp

DESIGN
bac'co

3. 観光

観光面でも最近の下関は、全国的にももっともホットな街といえるのではないのでしょうか。それは、関門海峡沿いの唐戸地区(海響館・カモンワーフ・唐戸市場・巖流島)やみもすそ川地区(長州砲・義経知盛像・みもすそ川公園)の整備とともに下関フィルムコミッションの活躍(「チルソクの夏」「四日間の奇蹟」「カーテンコール」等の映画製作協力など)や観光団体や市民ボランティアの継続的なもてなし活動をともなしたもののせき観光キャンペーンの成果ではないかと思えます。また、ふく・うに・くじら・アンコウといった名物料理の存在やしっかりと情緒あるたたずまいを今に残す、功山寺や旧毛利邸、古江小路といった長府城下町の街並みも、現代人にひと時の街歩きの楽しさ、旅の楽しさを感じさせてくれる下関の大きな魅力となっております。今年の今後の一押しイベントは年間最大の集客を誇る8月13日開催の関門海峡花火大会と、下関ならではの味を楽しませてくれる11月23日開催の下関さかな祭・リトル釜山フェスタではないのでしょうか。また、この秋カモンワーフで開催される観光寸劇「怪談耳なし芳一」や赤間神宮である「源平 night in 赤間神宮」も見逃せないイベントです。



《関門海峡花火大会》

映画ではこの秋「出口のない海」「長州ファイブ」などが公開される予定であり、昨年に続き映画館通いが求められそうです。さらに、映画のロケ地として大いに脚光を浴びた「角島」の美しさは、下関出身者としては1度は行っておかないと語れない魅力があり、他にも合併により温泉・名所・名物・イベントなど多くの資源が加わり、下関市の魅力は一層増えています。この秋は、下関の各地の観光地の魅力を肌で感じていただくため、ぜひ下関ナンバーで各地に出かけましょう。



《源平 night in 赤間神宮》

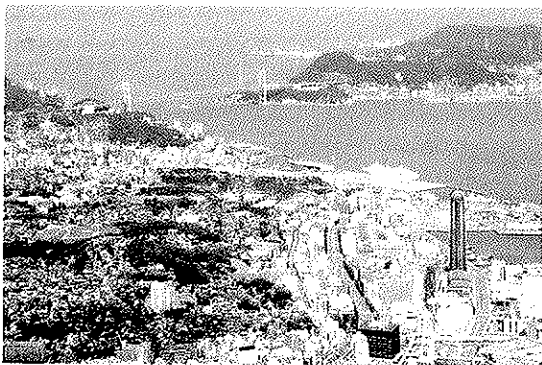


【今 下関が熱い!】

4. マンション建設ラッシュ

東京でもここ数年マンション建設ラッシュですが、下関もいま、下関駅前や細江、唐戸、壇ノ浦など関門海峡周辺の道路沿いにマンション建設が目白押しです。

海峡が美しく、常に歴史の風が感じられ、美味しい食べ物が身近にある下関の旧市街地は、今最も注目されています。商店街の衰退により寂れたところもありますが、下関に一度住んだ方はまた下関に住みたいとの多くの言葉を聞きます。Uターンや落ち着いた老後等人生の次のステージをお考えの方は、ぜひ下関に戻ってご一考をお願いします。2000万~4000万で人生至福の時が手に入るかもしれませんよ。下関の奥深い魅力をお忘れなく。



《シーモール下関上空より》

□□□□□□□□□□□□
 情報アクセスコーナー
 □□□□□□□□□□□□

○かかんもん北九州ファンクラブに加入しませんか。

北九州や下関出身の方々が東京を中心に1200人以上の会員で交流や情報交換をしているネットワークです。この会は、2ヶ月に1回会報誌を発行し、関門や東京地区での郷土関連情報の交換や活動を行っています。入会は、年会費1口1000円で、何口でも受入れるそうです。会報誌はHPにありますのでぜひ一度ご覧下さい。

○下関市のHPで最新の観光情報の入手を!

下関市のHPは最近とても充実した情報を提供しています。特に情報量が多いのは、「観光」に関するコーナーで最新のイベントや特ダネ情報が満載ですので、下関に帰るときは、ぜひチェックしましょう。また、観光振興に寄与する場合下関の写真を活用したい場合は「観光写真がワールド」があります。旅行者の方などとても便利なので、ぜひご利用下さい。

○下関市フィルムコミッションをご存知ですか。

この組織は下関の民間団体や市が加わり、下関出身の佐々部清監督の映画や下関が舞台になった映画など、最近の多くの映画作りに活躍しています。映画に関するお問合せや応援、新作映画の誘致など大いにフィルムコミッションに支援をお願いいたします。

○下関市東京事務所を活用しましょう!

事務所は、地下鉄永田町駅から徒歩3分、赤坂プリンスホテル別館斜め向い日本都市センター12階にありますのでぜひ一度お尋ね下さい。TEL.03-3261-4098



平成18年度



旭陵同窓会東京支部総会

開催おめでとう!

旭陵52期 九州在住者一同

祝 平成18年度

旭陵同窓会東京支部総会

お盆や正月は、下関(唐戸、豊前田、グリーンモール)で飲みましょう! 同期のみんなも帰ったら声かけてね!

待っちゃるよ!

下関在住 旭陵第52期生有志一同

ご挨拶

旭陵同窓会 支部長挨拶



旭陵同窓会東京支部長
白井 哲三郎
(第34期生)

『理想のもとに前進せよ』

このサブタイトルは、我々34期生が下関西高校を卒業するとき発行された「下関西高新聞」(昭和32年3月1日)で当時の相本校長先生が「送辞」として述べて頂いた見出しです。私が支部長に選任された直後の34期の同期の集まり(東京三四郎会)で、ある同期が「お前もこれから皆さんの前でしゃべったり文章を書くことが多くなるだろうから、これを一つの参考にしろ」といってcopyをくれたものです。同期は有難いものです。新聞の内容は「校長送辞」に始まり担任教師(恩師)からの卒業祝いの言葉、後輩からの言葉等など、今読んで感動する内容で満たされています。本当に良い高校を卒業したものだとの思いを新たにしました。さて、校長送辞の中で「妥当で合理的で現実的な希望と理想のもとに事を処理することから出発しようではないか」というお言葉が有ります。いま東京支部にとって妥当で合理的で現実的な希望とは何でしょうか。勿論7月の東京支部総会を盛大に有意義に開催することです。昨年は252名の出席が有りました。内訳は70歳以上(7%)、60歳台(27%)、50歳台(24%)、40歳台(26%)、30歳台(3%)、20歳台(13%)です。少子高齢化は東京支部にとっても例外ではありません。今後30代20代の出席者を増やして行きます。昨年は幹事の努力で20代の若者が30名参加しました。今年の幹事52期の皆さんの協力を得て実りある総会にしたいと思います。この東京支部広報誌「旭陵倶楽部第16号」をご覧になって是非大勢の方の出席をお待ちしています。(特に30代20代の方)

旭陵同窓会 会長挨拶



旭陵同窓会 会長
前田 日出三
(第31期生)

『新体育館に新しい緞帳を』

旭陵同窓会東京支部の皆様におかれましては、『あの日に帰りたい・・・関中・西高がやってくる!』をテーマに、第52期生の並々ならぬご活躍により平成18年度の支部総会が盛大に開催されますことをお慶び申し上げます。また東京支部の皆様には、常日頃本部活動に深いご理解とご協力を頂いておりますことに感謝し、お礼申し上げます。

昨年、新会長として、支部総会にお招き頂きましてありがとうございました改めてお礼申し上げます。250名を越す出席者で、特に若い人々の出席が多く盛大さに圧倒され羨ましく思いました。人集めのコツを支部長様に教えていただき感謝の念を禁じ得ません。有難うございました。この教を生かすよう努力するつもりです。また、総会の折、多士済々、各界でご活躍の素晴らしい方々にお目にかかることが出来、嬉しく、誇らしく、私まで偉くなったような気持ちにさせていただきました。今でも楽しく思い出されます。そのとき、私のご挨拶の中で、新体育館の装備の一つとして新しい緞帳を同窓会より寄贈することになり、その協力を、出費多端のおり、大変ご迷惑とは存じましたが、曲げてお願い申し上げます次第です。よろしく願い申し上げます。

今年の6月9日(金)西高文化祭に、東京女子医科大学名誉教授の須磨幸蔵先生(第28期)のご講演と、新体育館の落成記念行事として10月20日(金)文化庁主催の『本物の舞台芸術』の一つとしてオペレッタが上演される予定になっておりますことをご披露申し上げます。

終わりにになりましたが、今年の支部総会で皆様にお会いできることを楽しみにしますと共に、皆様のご活躍とご多幸を祈念します。



平成18年度
旭陵同窓会東京支部総会

総会の盛会を祈る!!

旭陵東京三四期生一同



平成18年度
旭陵同窓会東京支部総会
開催おめでとうございます

旭陵同窓会
会長 前田 日出三
(第31期生)

東京支部総会に寄せて



山口県立
下関西高等学校校長
貞末 俊裕

『最近の学校の様子 — 今、西高は！』

平成18年度旭陵同窓会東京支部総会が盛大に開催されますことに、心からお祝い申し上げます。また、同窓生の皆様方には平素から本校教育の充実発展に格段の御支援・御協力を賜っており厚くお礼申し上げます。

特に昨年は4月早々に部活動用のマイクロバスを寄贈頂き、生徒達も直接試合会場に行くことができるようになり、たいへん感謝しております。更に普通教室へのエアコンの設置、理科棟やグラウンド照明灯も改修され、現在、体育館も新築中であり7月中旬には完成する予定です。体育館竣工を記念して10月20日に文化庁の主催行事である「本物の舞台芸術（オペレッタ）」を公演することにしております。

さて、3月には293人の生徒が卒業し、新たに同窓会員の仲間入りをさせて頂き、全国各地で活躍を始めています。また、本年度は全日制719人（18学級）、定時制63人（4学級）の生徒数で順調にスタートしております。

前述のように皆様方のお陰をもちまして、教育環境は格段の整備を進めることができました。今後は恵まれた教育環境を最大限に活用するため、あらためて校是『天下第一関』のもと「知・徳・体のバランスのとれた人間形成」をベースに据えつつ、“生徒一人ひとりの進路実現”を目標に、これまで以上に充実した教育活動を推進することにしていきます。

ところで昨年6月11日の旭陵祭では、同窓会の御援助で吉井溥氏（32期生）から御講演を頂き、生徒一同深く感銘を受けました。本年度も6月9日に須磨幸蔵氏（28期生）の御講演を頂くことになっています。

今後とも同窓生の皆様方の期待に応えるよう学校運営を進めて参る所存です。同窓生の皆様方におかれましては、引き続き本校教育の充実発展に御理解御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、旭陵同窓会東京支部の益々の御発展並びに会員の皆様の御健勝をお祈りします。

旭陵同窓会 幹事長メッセージ



旭陵同窓会幹事長
藤本 正三
(第35期生)

『お礼とお願い』

東京支部の総会が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

昨年は下関市と周辺四町との合併もできあがり、少しずつではありますが合併効果といえますか生活環境その他いろいろなところに変化が生じております。来春には市議会議員選挙が行われ、名実共に新市のスタートになるようです。

ところで、昨年は運動部の活動用にバスの購入を計画し同窓会の皆さんに寄付のお願いをしましたところ多くの方々のご協力をいただきありがとうございました。おかげをもちまして立派なバスを購入することができ、生徒たちは大いに活用し喜んでおります。誌面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

また、今年は母校西高の体育館の老朽化により建替え工事が行われております。7月完工、2学期より使用開始の予定で目下工事が進んでおります。

同窓会としまして、演壇上の緞帳の寄付を行うことを決定し800万円の予算を組んで、目下募金活動を行っております。昨年に続き会員の皆様には多大な出費をお願いする次第ですが母校のために今一度のご協力をお願いいたします。

次に母校におきましては各運動部の活躍は野球・サッカー・テニス・弓道等すばらしい成績を上げておりますが、文化部においてもブラスバンド・文芸部・囲碁等すばらしい成績を上げております。6月の第1金土には毎年旭陵祭（文化祭）が行われますが同窓会より講師を派遣して文化講演会を行っております。

昨年は吉井溥先輩を、今年は須磨幸蔵先輩をお願いしております。来年の講師は未定ですので講師の募集を行っておりますので、自薦他薦よろしく願いいたします。

最後に東京支部の今後益々のご発展を心より祈念いたします。

株式会社じゃぱこん

Japacom, inc

代表取締役社長

吉川 順一

Yoshikawa Junichi

URL: <http://www.japacom.jp>

祝！平成18年度
旭陵同窓会東京支部総会



住友不動産販売(株)

上田 隆実 (48期)

〒104-0031

東京都中央区京橋1-1-1 (八重洲ダイビル)

tel: 03-6225-4731 fax: 03-3231-3352

url: <http://www.stepon.co.jp>

旭陵同窓会

第57期生

(昭和55年卒)

東行会
一同

幹事 磯部弘志

新旧幹事代表挨拶

平成17年度 幹事代表挨拶



平成17年度当番幹事代表
有川 起巳
(第51期生)

「1年の活動を終えて」

昨年の支部総会が無事にかつ盛大に開催されましたことを旭陵同窓会会員の皆様に改めて御礼申し上げます。併せて、1年間の活動に暖かいご支援をいただきありがとうございます。

さて、今年の支部総会の案内を受け、1年間の幹事としての役目が終わったことをやっと実感できるようになりました。不安の中でスタートした幹事活動ですが、終わってみれば、ひとつひとつが楽しく、充実したひと時でした。完成した会報を見たときは一種感動を覚えたものでした。そして迎えた支部総会。天候を心配しながら迎えた朝は緊張感があり、身の引き締まる思いでしたが、若い人もたくさん来てくれて、本当にうれしい限りでした。

ところで、1年間の活動を終えて、高校時代以上の繋がりができたことを機会に同窓会、母校との関わりを深めたいと思っています。51期では、同期のHPの立ち上げや会則を作り、今後も活動を続けていくことにしています。故郷の仲間たちとも今まで以上に連絡をとりあい、仲間が上京すればすぐに同期会を開催し、昔話に花を咲かせています。今年のテーマ、「あの日に帰りたい」を身近な仲間同士で感じています。皆で集まる総会は年に一度ぐらいしかできないかも知れませんが、親しい仲間とはもっと会いたい。そういう年代になったのかも知れません。

今年は、下関駅の焼失とつらい話題もありました。故郷を離れた人々には故郷の駅は格別なものです。地元発展のためにも支部総会のますますの発展を祈念し、今後も参加したいと思います。それでは総会で下関を語り合いましょう。

平成18年度 当番幹事代表挨拶



平成18年度当番幹事代表
木村 康則
(第52期生)

「同窓会は疑似体験の場!」

とうとうやって来ました。今年の当番は我々52期です。昨年、51期有川先輩以下から丁寧な引継を行ってもらったものの、どうやって進めればよいか暗中模索の状態でした。しかし、月1回有志で集まって議論しているうちに、メンバが各自の得意な面を発揮して少しずつ動き始めました。

現役西高生だったころ、ある先生から「西高のよいところは、教師が生徒に逐一指示しなくて良いこと。何をやるにも直前までどうなることやらとハラハラするのに、最後はきちんとやり遂げる」と言われたことがあります。この西高のDNAは四半世紀経っても生きています。残されているのは、「最後はきちんとやり遂げる」ことです。間違いなくそうなることを確信しています。

ところで、「同窓会」とは何でしょうか。私は複数の大学に在籍し、出向も経験しましたが、どこの同窓会も低調です。とくに若い方の参加が少ないようです。

私は、同窓会は「疑似体験の場」ではないかと思っています。同窓会は、年齢、性別、職業の異なる面々が、かつて同じ集団活動をしたという理由で集まる団体です。そこでは、当然のことながら、いろいろな価値観、社会/生活体験が交差します。したがって、大学生会員にとっては社会への窓、若い社会人にとっては自分の目標を見つける場、我々の世代になると第二の人生を考える(相談する)場、ではないでしょうか。そう考えると、同窓会もまんざらでもない、と思えてきます。

ことしの総会テーマは「あの日に帰りたい-関中・西高がやってくる」です。タイトルは当時流行っていた歌から取りました(著作権は?です)。メンバで議論の末、当時の授業、体育祭を再現できないかと考え、このようにしました。恩師の先生も例年より多い四名の方々をお呼びしました。意味は異なりますが、西高生だったころを思い出して「疑似体験」をして頂ければと思っています。

それでは、「小泉劇場」ならぬ「疑似体験劇場」のはじまりです。主役は同窓生皆様ご自身です。よろしく願い致します。

竹内国際特許事務所

国内及び海外に於ける
特許、商標、意匠に関する手続き

代表者 弁理士

竹内 裕

(第37期生)

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目1番地
西脇ビル701号
TEL: 03(3264)7792 FAX: 03(3264)7834

daidokoro

I Z A K A Y A

Woosuk Bldg, Annex, 28-12, Hannam-dong, Yongsan-gu, Seoul
tel: 82-2-792-7000

韓国へお越しの際は、ぜひお立寄り下さい
オーナー 朴正淳 (52期 旧姓: 岡田)



櫃本 光一
(第23期生)

「西高時代を省りみて」

東京支部総会の幹事で西高52期の武濤君に会い、また電話の声を聞く和西高のボロ校舎に通動していた多忙で、補習科迄受け持っていた、忙しい日々の西高教師時代が心の底からなつかしく思い出されます。本当に毎日英語教師のみならず、雑多な職務をこなしていた毎日でした。私も気持の上だけでも若かったですね。西高の毎日が私の生活でした。その頃の生徒諸君の一人一人を今でもなつかしく思い出しますが、みな可愛かった素晴らしい人々たちでした。思い出はつきることなき毎日の諸君達でしたよ。体育大会、遠足、修学旅行と楽しい事はいくらかもありました。今でもはっきり克明に覚えていますよ。西高は素晴らしい学校でした。私はそこで良き教師時代が過ぎたことを一生忘れないでしょう。

7月29日の旭陵同窓会東京支部の総会は素晴らしいものと今からわくわくして居ります。私自身、西高の諸君等の先輩ですから、察して余りあるものがあります。52期の諸君をはじめ皆さんに会えることを今から、楽しみにしています。あの西高のボロ校舎時代を過ぎた思い出と共に、いつ迄も我々は、そして私は若々しい青年でありたいのです。東京で7月29日にみなさんに会えて一夜を過せること心から楽しみにしています。

東京での再会を期して！



岩田 忠泰
(第32期生)

「近況報告」

理科棟4階の地学教室を覚えていますか。そこで今年も、月水金の午前中非常勤講師として、地学の授業をしています。

月土日の午後2時間、年金生活者を中心としたメンバーでテニスをしています。それに週1回の男声合唱と週単位では、比較的規則正しい生活を送っています。

数年前から、コレステロール値が高く、リピトールを服用しています。検査では、正常値なのですが、薬は欠かせません。

健康には、十分注意を払っているつもりですが、『おもいっきりテレビ』の影響か、体によいと取り上げられた食材の数々を、つい食べ過ぎて、ずいぶん太ってしまいました。筋肉の衰えが気がかりです。歩くのが一番だとわかっているのですが。

『数独』に凝っています。朝日新聞のクイズ欄に掲載されたものを、少しでもボケ防止になるかなと思いながら、何度も書いたり消したりして考えています。



福田 強
(第32期生)

「私の近況など」

今年の当番幹事(五十二期生)が入学した昭和四十七年に、三十五歳の私も母校に転校したので印象深いものがあります。

その一つに、幹事が二年生になった時の修学旅行で、県下では初めての「グループ研修」という名の一日の自由行動を行い、その計画表の担当をしたことです。皆さんはよく研究をしていました。こんな道が出来たのか、こんなに便利になったのかと京都に在住の私の友達に尋ねながら、計画表の点検を行ったものです。予定時間に遅れるグループもそれなりの連絡があり、全員無事に宿に帰ってきて安心したものです。これ以降この研修は何年か続きました。

また私の学生時代の経験から、先生の力を試すような質問をされて立ち往生しては困ると、それまで以上に授業の予習をしたもので、最初の年は運良く一年生の授業が多く、その後順次持ち上がりで皆さんに鍛えられたこともあり、十六年間無難にお世話になりました。

それから響高校(元西高の黒井分校)に転勤の後、ここで定年退職。退職後一年間において福岡県立門司高校に四年、下関西高に四年、今年から豊浦高校に週三日勤めています。

現役最後の響高校では写真部の顧問となり写真に興味を持つようになりました。退職後は仲間と各地に撮影旅行をしていましたが、このところ遠ざかっています。

昨年までの健康診断ではどこも異常なし、至って元気です。しかし、趣味の弓道はだんだん弱弓になり、たまにカメラ二台を担ぎ野山を歩けば足が棒ようになります。すでに七十歳です。仕方がありません。晩酌もたばこも止められない私はそれなりに健康に気をつけながら生活しています。

最後に、五十歳を迎えた幹事の皆さんを初め、ご出席の皆さんのご健康と、今後ますますのご発展をお祈りいたします。



松井 忠夫

「近況報告」

五十二期代表の方から同窓会への突然の案内をいただき返答に戸惑いました。それは五十二期の皆さんとは授業だけで担任をしていないからです。しかし、皆さんの立派に成長活躍している姿をみることにしました。

そこで小生の長い人生経験からいくつかの気付と近況報告をします。

- ①生徒は先生によって鍛えられ、先生は生徒によってもっと鍛えられることを西高で学んだ。
- ②人は人との出会いによって人生が決まる。小生は西高在職中の出会いで今日がある。
- ③皆さんにとって怖い人がいますか。怖い人がいることが大切です。怖い人がいないと進歩がなくなる。
- ④「人生いろいろ」絶対に金銭貸借の保証人になってはいけない。「ノー」と断る勇気をもつこと。
- ⑤健康ほど大切なものはない。特に歳をとると・・・健康は最大の金儲である。
- ⑥歳をとると、「死」について考える時間が若者に比べて増えてくる。

小生は四十七年四月から六十二年三月まで西高に在職し次に教務主任として豊北高校へ3年間、教頭として徳佐高校高俣分校へ一年間、県教育庁指導課へ二年間、校長として防府養護へ三年間、下関南高校へ二年間奉職し、平成十年三月定年退職し。引き続き校長として、私立の下関女子短大付属高校へ五年間奉職し、退職と同時に県立大学大学院に最高齢者として入学し、十五年三月に卒業し、今は学校法人河野学園(短大、高校二つの幼稚園を運営している)の理事長として教育界で何とか頑張っている。

皆さん、帰国されたら是非学園に立寄って下さい。世界一おいしいコーヒーをご馳走しますよ。

おわりに、旭陵同窓生の今後益々の活躍を祈っております。

支部便り

『とようら会 近況報告』

市村 達也 (第66期生)

第18回とようら会の定期大会が平成17年11月23日(祝)午後5時より、川棚グランドホテル(岡本文孝社長・第35期)で開催されました。本部より片野副会長・伊村幹事、学校からは貞末校長のご出席を賜り、また会員37名の出席を頂きました。

来賓の方々からお言葉を頂戴し、また本会を開催するにあたりご尽力賜りました岡本社長より、「自然を生かした企業活動」をテーマに、体験談を踏まえた貴重な講話をして頂きました。その後、懐かしい母校や旧友の思い出やお互いの最近の出来事などを語りあい、最後は恒例の「下関西校校歌」「久遠にあおく」「応援歌」で締めくくり、盛況のうちに閉会することができました。第30期から第74期まで幅広い年齢層の出席者にあっても、やはり校歌斉唱に際しては各々の青春時代の輝きを回顧し、一体感を持つことができたのではないかと思います。



ただこの数年、旭陵とようら会では「若い世代の参加・勧誘」が課題となっており、地元に住居或いは勤務する卒業生が年々少なくなっている現状があります。下関市との合併など大規模な情勢の変動もありますが、こういうときだからこそ同郷・同窓の絆を一層大切にし、旭陵とようら会の更なる発展に努力して参りたいと思います。

翔洋法律事務所

弁護士 山城 昌巳 (35回生)

〒106-0032

東京都港区六本木7-15-17 ユニ六本木ビル10F
Phone: (03)3403-9041 Fax: (03)3403-1497

LARSON・JUHL

額縁と絵画のご用命は

ラーソン・ジュール・ニッポン株式会社

代表取締役 大河原 泰介 (37期)

本社/〒108-0074 東京都港区高輪3-4-1 高輪偕成ビル
TEL 03(5421)2061 FAX 03(5421)2136
URL <http://www.larson-juhl.co.jp>



株式会社 サン・ステップ

大切な資産
いま、所有から活用へ

代表取締役
社長

亀山 征夫 (37期)

●本社
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-19-1
ビッグス新宿ビル4F
TEL: 03-3350-8731 (代)
URL: <http://www.sunstep.co.jp>

伊藤内科医院

内科・循環器科
呼吸器科・胃腸科

院長 伊藤 肇 (33期)

下関市稗田北町13-36
Tel: 0832-53-2040

皆様のご健勝とご活躍を祈念致します

西高ハンドボール部 OB会事務局
にしはらクリニック 西原 謙二 (50期)

下関市生野町2-33-10
TEL: 0832-51-1167 FAX: 0832-51-1186

ぶち、がんばっちょるよ！！ 下関西高 クラブ活動

～ 更なる高みを目指して ～

陸上競技部 稲田 佳祐

陸上部は、顧問である上寺先生の下、男子11人・女子11人の計22人で、日々練習に励んでいます。今回行われた市内大会では、個々が上位に入賞し、県大会行きを決めています。団体では、4×100mで45秒10、4×400mで3分33秒49で、共に二位を男子が記録し、女子もそれぞれ55秒26、4分35秒30で二位・三位をいう結果を残しました。今は、6月に行われる県高校総体さらにその上の中国大会や全国大会に行くという目標に向かって切磋琢磨しているところです。

西高陸上部は、記録に挑戦し自らを高めていこうとする部活ではありませんが、記録を目指す一方で、もう一つ培っているものがあります。それは、陸上競技を通じて自分が成長していく術や、社会のルール、自分のあり方、また自分がどういう人間であるか、部の一員として、自分がどのような役割を担い行動しなければならないか…などについて学ぶことです。

例えば、大会の終わりに行う、部の反省会です。これは大会ごとに個人が皆に向けて大会の記録を報告したり、これからどう努めていきたいか、部をどの方向に向けていけばいいか、などを話す機会となっています。前年のキャプテンはその反省会で、部をまとめるために“縦のつながりや横のつながりを持つことの大切さ”“自分が何を思い、それに伴ってどのように行動するべきなのか”について心から話してくれました。またある先輩は、陸上競技への思いと共に、達成できなかった中国大会出場をふり返って、言葉を詰まらせながら語ってくれました。今回の大会では、これからの陸上人・人間としてのあり方を皆で述べ合うことで、自分がまだまだであることを痛感し、新しい気持ちで陸上競技を見つめ直すことができました。この会は、陸上



部を高めるための最高の会であり、素晴らしい伝統のひとつだと思います。

本校陸上部で、他に特徴的なことの一つとして挙げられることは、練習メニューです。中学生の時には、先生から細かく指示されていた僕にとっては驚くべきことでした。それは、各ブロックに分かれてメインとなる練習メニューを決め、たとえ顧問の先生が居られない時でも怠惰になることなく行うということです。今では、日によって、体調や大会までの日程も考えて臨機応変に対処しています。

練習は楽しもうと思えばいくらでもそうすることができますが、必死に取り組んでいる部員しかいません。時には自分ではどうしたらよいかわからない時もありますが、顧問の先生のおかげで解決したり、先輩や他の部員に相談して解決することもあります。

最後になりましたが、この西高陸上部を育て、見守ってくださるOBの皆様、本当にありがとうございます。これからも伝統を大切に、更なる高みを目指して走っていきたいと思います。

～ 創設から現在まで ～

女子バスケットボール部 織田村 梨那

暖かい春の日差しの中、体育館で汗を流しながら、私達はちょうど2年前体育教室室前のスペースで縄跳びをしていた頃を思い出します。

当時、入学したばかりの私達3年生は、高校でもバスケットボールをしたいと思い、バスケットボール部として活動したいと考えた。最初はなかなか受けあってもらえなかったが、毎日屋外で縄跳びやフットワークなどの練習を行ったり、先生方に相談したりして、いつかは部活動として認めてもらえる信じ、頑張った。そして、その年の夏、何とか同好会として活動を始めることができた。

しかし、同好会として活動するようになってからも、以前と変わらず練習場所は戦場ヶ原公園で、早朝以外は体育館も使用できない。生徒会から補助も出ないため用具代も自分達で負担した。それでも、私たちは嬉しかった。公式戦にも出れるようになり、何より体育館でバスケットボールができることが1年ぶりのことだったからだ。また、先輩の中にも一緒にバスケットボールをしてくれる人がいたのも嬉しかった。

2年目の春を迎えた。新入部員と共に練習に励んでいると、だんだんと応援してくれる人も増え、練習条件も少しずつ良くなっていった。そして、夏の小野田市近郷大会では優勝することができた。私たちの努力がこんなに認められ、バスケットボールができたのも、顧問の桐原先生を初め、男子バスケのOBの方々、応援して下さいました。私たちがいたからこそ感謝せざるにはいけない。本当にありがとうございました。私たちの引退後は先輩達に西高女子バスケ部をしっかりと引っ張ってほしい。

バスケが好きだという思いだけでここまでやってきたが、こうして今のメンバーでバスケットボールをしていられるのも後わずかだ。3年目の春、バスケットボールをしてきてよかったと思うよう、残り時間を皆で楽しく、充実したものにしていきたい。



～ 中国大会金賞を目指して ～

吹奏楽部 部長 副島麻衣

昨年の夏の吹奏楽コンクールでは、県大会を突破して中国大会に出場し、銀賞を受賞することができました。私は高校に入学する前にも何度か中国大会出場のために恵まれましたが、結果はいつも銀賞で、「中国大会の金賞」をまだ手にしたことがありません。もう少しで手が届くのに、というところでいつも止まってしまいます。3年生の引退後、新体制になって初めての大会である12月のアンサンブルコンテストに、私はかなり力を入れていました。まずは県大会を突破しなきゃ、としか思っていませんでした。しかし、そんな気持ちで表彰式の舞台上に立った私の耳に飛び込んできたのは、「最優秀賞」という言葉でした。本当に嬉しかったです。自分のやってきたことが認められたということが、良い意味で自信に繋がりました。中国大会に向けてさらに練習を積んでいく間、いろいろな面で周囲から「山口県1位の人たち」と言われることになんかのプレッシャーを感じましたが、そのおかげで、今度こそ「中国大会の金賞」を取ってやろうという気になれました。しかし本番では思い通りの演奏ができず、結果はまたしても銀賞でした。あと1点で金賞だったのに、やっぱり手が届きませんでした。

私が吹奏楽部員でいられるのも残りわずかとなってしまいました。今年は3年生15名、2年生20名、1年生10名の計45名でコンクールに挑みます。決して十分な人数ではありませんが、私はこのメンバーで、まだ一度も経験したことのない「中国大会の金賞」を手にしたいと思っています。最後の夏、私達の全てをかけて頑張ります。



大学生OBからメッセージ



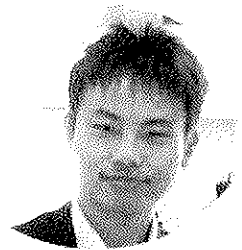
早稲田大学政治経済学部
政治学科2年
二藤 泰明
(第83期生)

『当世大学生事情—早大の隠れた名物「行事」』

早いもので、生まれ育った下関の地を離れ、早稲田大学政治経済学部に入學してからもう1年も経つ。大学生活は新鮮で、大変充実している。初等・中等教育とは異なり、大学の講義や演習は、自身の興味・関心に照らして選択することが出来る。特に早大政経学部においては、一般的に必修科目と呼ばれるものはごくわずかで、学生に目的意識と学ぶ気さえあれば、いくらでも学ぶ機会と場所は与えられる。ただし我が校の3月下旬～4月上旬期には、他大学の学生には思いもよらないであろうほど熾烈な、科目登録という「行事」がある。この時期になると、大学付近の書店には、授業内容や単位の取得し易さといった学生の視点から書かれた、数種の科目登録情報誌が販売されている。ここから互いに裏の裏を読みあう心理戦が始まるのである。例えば、こんな具合である。この科目は、単位が取りやすいとされる、いわゆる「楽勝科目」である。しかし、皆が殺到した場合、定員となり、授業を履修できない「選外」になってしまうのではないか。2次登録、3次登録となれば、ますます「楽勝科目」は減ることになる。そうなる前に、その次の「楽勝科目」を選べば良いのでは—。この悩ましい時期を過ぎれば、あとは各自勉強に、サークル活動に、アルバイトにと打ち込んでいく、早稲田大学の日常風景へと戻っていくのである。

早稲田の杜が芽吹く頃 花の香りは沈丁花 人生意気に感じたら びくともするなと銅像が びくともせず風に立つ— (「人生劇場」セリフより)

今年はいよいよ「人生劇場」2年目。まだまだ世間知らずの未熟者、肅々と知識・教養の充実に努めることはもちろん、色々な経験を積み、人間として少しでも成長していけるよう、一日一日を大切に過ごしていきたい。乱文失礼致しました。



慶應義塾大学法学部
法律学科4年
石丸 寛
(第80期生)

『当世大学生事情—Moratoriumの使い方—』

「大学時代はものすごいスピードで過ぎる」というのを昔からよく耳にしますが、正にその通りです。あっという間に大学最終年になり、現在は自身が目指す将来に向けて奔走する日々を過ごしています。

しかしその一方でこれまでの大学生活を振り返ることがしばしばあります。果たしてこの3年弱という期間は自分にとって如何なるものであったかと。皆さんにとって大学生活はどのようなものですか、又はどのようなものでしたでしょうか。

「大人」とも呼べず、「子供」とも呼べないこの時期に私達は非常に多くの事を経験することができます。しかし、ある先輩が仰っていました。「大学生には其々自己をどうしてゆくかを決定する自由を行使出来るし、又その責任を負っている」と。大学生活をどのように過ごすことが最も良いのかという問題に私は答えを見出すことが出来ません。各々の優先すべき事項は千差万別ですし、どれを採ったとしてもその者の重要な財産となるからです。多くの友人等の出会いを求め、課外活動又は部活動に力を入れることもよし、資格試験合格、学習向上及び研究に没頭して過ごすのもよしです。然れどそれを為すことによって後悔するようなものにはして欲しくはありません。これから西高を卒業し、新天地にて新たな一步を踏み出す方や既にその状況下にある方は是非ともその事を了知した上で自身の有するMoratoriumを大事にして頂きたいものです。

有難い事に私の大学生活は非常に充実したものになりました。このような機会を与えて下さった全ての方々に感謝すると共に残り僅かしかない私自身のMoratoriumを有用なものにしていきたいと思ひます。

麴町総合法律事務所

弁護士 竹内 俊文 (41期)

〒102-0084 東京都千代田区二番町 11-10
麴町山王マンション 606号室
電話 (03) 3288-0481 (代)
FAX (03) 3288-0480



山口銀行東京地区在住卒業生

- ・ 瀧本 博志 (第41期生 東京本部)
- ・ 宮原 雅之 (第50期生 財務部)
- ・ 河村 和彦 (第56期生 東京支店)
- ・ 末藤 稔 (第58期生 東京本部)
- ・ 岡崎 範正 (第59期生 東京支店)
- ・ 西田 敬太 (第60期生 東京支店)
- ・ 重村 充生 (第60期生 財務部)
- ・ 宮本 英一 (第68期生 東京支店)
- ・ 西岡 慶太郎 (第70期生 東京支店)
- ・ 江本 誠 (第74期生 財務部)

だからフットサルのメンバーは、
下関が大好きな人の集まりなんだよ（笑）

●それでは最初に、チーム結成の経緯について教えてください

73期生 吉田 栄（以下、栄）
：同じ73期のI君が発足者。同じ73期が大きな失恋をしてすることがなくなり、「フットサルでもするか！」で結成。最初のチーム名は、失恋のショックで高熱を出したことから「ヤマイハキカラ」だった（笑）

73期生 松本 哲（以下、哲）
：結成したのは2年半前。当時は西高メンバーのみだったけど、友達の友達つながりでメンバーを広げて、今は西高だけのチームではないんだ。チームの幹事役は半年毎に当番を回して、試合のブックイングをしながら活動してる。

●やはり十年長年の絆が良いチームワークを作っているのですか？

哲：でも僕達は、高校時代は顔見知り程度の仲だった人も多い。高校を卒業して地元を離れてから、毎年盆と正月に必ず下関に帰ってサッカーをしていて、そこから仲良くなったんだ。

栄：だからフットサルのメンバーは、下関が大好きな人の集まりなんだよ（笑）



⇒ユニフォームの胸のロゴはふぐをイメージしたもの

●30代を目前に控える今、一般的に転職願望の強まる年齢とされていますが、チャンスがあればチャレンジしたい？

哲：もちろん。僕の仕事は、安定はしているけれど充実感を感じない。それはおそらく、性格的に結果が直結しないとやりがいを見出せないからだと思う。

栄：僕は、実は就職して2年目に転職活動をしている。その時、高校時代になりたかった職種の会社にも内定をもらったけれど、冷静に生活のことを考えて、最終的には今の会社にとどまることにした。今は、仕事に対するやりがいは、どんな仕事であっても自分次第で見つけられるんじゃないかと思っている。

●将来の夢や野望は持っているの？

哲：僕は、地位や収入に対する欲はあまりない。手に職をつけて、好きな仕事を好きな場所でできれば、それが一番の幸せだと思っている。特に、今は転勤族だからその想いが強い。例えば「町の弁護士さん」とか素敵だね（笑）

栄：僕も、出世欲とかあまりない。物欲自体がなくなってきたかもしれない。

●でも、西高スピリッツはまだ失っていないよね？

哲：もちろん。熱い想いをもちよるよ！
栄：僕らフットサルチームで、西高を有名にするからね！

●西高の先輩方もかなりがんばられているようですよ。

哲：こんな時、西高OBの先輩方に色々お話を聞きたいね。会社の上司以外の社会の先輩から、アドバイスをもらいたい。

栄：同じ故郷だし、共通する価値観もあるかもしれないよね。



西高のビジョンは誰が描くのか？

●西高73期生で組んでいるフットサルチームはどう思う？

田村進（以下、進）：なかなか気の合う仲間たちです。フットサルは健康増進にもいいです。チームメイトとは長い付き合いなので、大体性格がわかります。

田村裕子（以下、裕子）：私らにとっては自然の成り行きでできたチームだけど、おそらく他の人から見たら異常な結束力だと思います。

●西高の仲間については？

進：色々なことを真剣に話せる、とてもいい仲間たちです。私の人生において欠かすことができない方々です。

裕子：変わったキャラかつ馬鹿になれる賢い人がおおい。フルネームが立派な名前が多い。



●思い描いていた仕事になれた？ なれなかった？

進：いま、現在の仕事は思い描いていた仕事に近づきつつあります。ただ、目標はまだまだ先ですが、いまはそれに向かって邁進していると思います。

裕子：男と対等に戦えるキャリアウーマンにはなれた？かも。あとは仕事と家庭の両立ができる女性をめざしてます。

●西高73期生の同窓会の幹事をいつもやってるけど、それについては？

進：僭越ながら幹事をやらせてもらってますが、私の呼びかけでみんなが来てくれるのはうれしいです。同窓会というのは参加者一人一人が主役

で、各人で自由に楽しんでもらうことを常に考えてます。なので、それにはみなさんの協力が必要だと思うし、幹事一人でできるものではないからね。その辺からも我々の代は協力的な人、西高に愛着のある人が多い気がするね。また、久々に会っても抵抗なく話せる。これはすごいと思うね。

裕子：同窓会の幹事はやっぱり大変。大変なぶんみんなが楽しんでるのが最高。

●西高生同志の結婚については？

進：うーん、よく続いたねー、と思うよ。高校卒業してからも、裕子を含めて、みんなと遊んでいたのもあるし、山崎をはじめみんなの暖かさがあったのも大きいと思うよ。

裕子：仲良しのみんなのおかげです（^0^）〃

●将来のビジョンはなんでしょう？

進：子供を西高に入れること。

裕子：子供も西高にいれること！

同期便り



横溝 洋一郎
(第52期生)

《あれは、やはり多感な青春時代だったのか?》

あれは、やはり多感な青春時代だったのか? 30年経った今でも、ふとした瞬間に、あの監獄にも似たグレーの校舎が頭をかすめる。

テニスコートそばの木漏れ陽、図書館のにおい。

職員室前の窓際には大学合格者の名前が貼り出されている。

正面玄関から2階に上る階段の手すりは、長い年月を重ねたためか「ピカピカ」に光っていた。そんな環境で過ごした3年(正確にはプラス9か月)

いったい、私は何を見て、何を聞いていたのか?

もつれた記憶の糸を紐解いても明快な答えは返ってこない。

ただ、胸になんらかの炎をくすぶらせながら、わが身の近未来に思いを馳せていたことだけは事実だ。

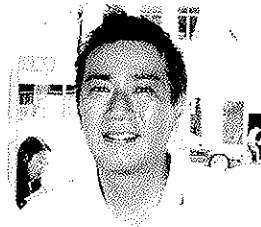
その舞台がいったいどこで、どんな人間がいるのかは、

まったく想像できなかった。ましてや世の中の仕組みなど蚊帳の外だ。

今、齢50を迎えようとしている私の中で、高校生活の記憶はこころなしか「ほろ苦い」。狭い世界で必死で自分探しをしていたように感じる。生きること、信じること、夢みること。決して悔いはないが、今の自分の基礎がぼんやりと出来上がっていったように感じる。

「やはり、あれは、青春だったんだ。」理科棟の化学室のにおいも、旧体育館の床のきしみも、教室の机と椅子がくっついた異様な物体も、そして、天井に残された雨漏りのにじみの跡も……。

記憶はしっかり胸の中に残っていて、友人が微笑みかけてくれている。



津田 仁
(第52期生)

《シンガポールへの桜便り》

私は、日本と外交関係を樹立して40年という節目を迎えた、東南アジアの島国シンガポールに暮らしています。この4月で1年6ヶ月になります。

国によって違いは、ありますが、当地において、日本の様子は、NHK ワールド プレミアムというチャンネルが、唯一といえるほどの動く映像での情報収集手段です。

とはいえ、残念ながら、オリンピック、MLBやWBC等は、静止画像が主なのですが。

これを書いている今、桜満開といったニュースが、真っ盛りです。

この寄稿依頼を受けたこともあるのですが、ふと、バスを降りて坂道を登って行くと、母校西高の校舎と桜が満開の映像が、頭に浮んで来ました。(もう卒業して32年経過しており、記憶も定かではありませんが。) 裏山ともいえる、忠霊塔も桜の名所でしたね。懐かしく思い出します。海外生活をしていますと、桜は、日本を思い起こさせる花だと、改めて感じさせられています。

近況はといえば、月に約1週間程度、近隣の国々へ出張。週末は、日焼け止めを塗ってのゴルフをメインに過ごしております。(皆さんも夏場のゴルフには、日焼け止めクリームを塗ってプレイされることをお勧めします。疲れの度合いが、まるで違います。)

今回、我々52期生が、当番幹事となる節目に際して、出席もままなりません。同期の健闘、皆様のご健康、会の盛會を南十字星輝く新嘉坡よりお祈りいたします。

大西 歯科 医院

一般歯科・小児歯科

院長 大西 弘
副院長 大西 尚子(52期)
旧姓(竹田)

長野市篠ノ井布施五明 440-1
TEL:026-292-7323

54 税理士 共同事務所
社務士

税理士 山本 大志(52期)
Daiji Yamamoto

E-mail: daijikun@mail.goo.ne.jp

〒400-0031
山梨県甲府市丸の内 3-21-10 ネクスビル 4F
Phone: <055>228-1985 Fax: <055>228-1987

なかの 歯科 医院

一般歯科・小児歯科

院長 中野 啓子(52期)
旧姓(松本)

茨城県ひたちなか市福田 358-5
TEL:029-285-3618 FAX:029-285-8582

第24回 旭陵ゴルフ会開催

旭陵ゴルフ会(会長 町田 顕 氏(32期))の18年春の大会が、5月21日(日)、真夏を思わせる素晴らしい天候のもと、江戸崎ゴルフ倶楽部で開催されました。今回は第24回大会で、西高のにし(24)を兼ねて24位には豪華な賞品が出るという、記念すべき大会でした。中部銀次郎永世名誉会長(37期)のゴルフ哲学に基づくこの大会は、既に12年を経過するという歴史あるものです。今回は、副会長の山時司さん(33期)をはじめ、21期から57期まで幅広い年代から、また愛知県からも参加いただくなど、総勢39名で10組の参加がありました。そして激戦の中、井上茂さん(47期)が見事優勝されました。おめでとうございます。

筆者は、今回旭陵ゴルフ会に初めて参加しました。初めて参加しても、ゴルフ初心者でも、参加者の多くを知らなくとも、同じ旭陵出身者ということで、円滑に色々な話題で気軽に話ができて、プレーも懇親も誰もが楽しむことができます。同窓の皆様にも今後の参加を心よりお勧めいたします。次は本年秋に開催の予定ですので支部ウェブサイトなどでの、大会案内を参照ください。

なお、結果は以下の通りです。(敬称略)

優勝 井上 茂 47期
準優勝 田中 明 38期
第3位 北村 隆信 44期
ベストグロ 亀山 征夫 37期

最後になりましたが、磯部さん(57期)の献身的な幹事ぶりで準備段階から最後の懇親会まで円滑な運営がなされ、盛大な大会になりましたことに御礼申し上げます。

(52期 武瀧記)



☆☆ 旭陵同窓会東京支部各期代表世話人 ☆☆☆

期	代表者	期	代表者	期	代表者	期	代表者	期	代表者
9	原 禎一	22	池上 茂	36	島津屋 龍	50	門前 孝志	64	安藤 英浩
10	澁谷 潔	23	川崎 信夫	37	竹内 裕	51	有川 起巳	65	
11		24	江川 洋	38	植村 実敏	52	木村 康則	66	
12		25		39	山本 浩己	53	新村 篤	67	渡邊 剛
13	秋元 淑男	26		40	高田 道治	54	杉本 宜則	68	
14		27	弘中 健二	41	竹内 俊文	55	山口 直	69	田中 一弥
15	橋口 泰	28	西村 明允	42	吉川 順一	56	越後 正彦	70	金子 由紀
16	白石 雅夫	29	藤井 哲夫	43	土野 耕二	57	磯部 弘志	71	
17	石坪 哲郎	30	竹中 孝之輔	44	梅田 晴正	58	村上 泰雄	72	中山 知亜紀
18	田口 武平	31	大塚 一宏	45	三宅 晴久	59	河野 浩	73	松浦 正徳
19	安西 喬	32	松永 幸雄	46	栗明 純生	60	加藤 久美子	74	
20	村岡 二郎	33	岡崎 勝義	47	西 真慶	61	森迫 武士	75	
21(旧5年)	有田 孝久	34	白井 哲三郎	48	上田 隆実	62	金井 望	76	
21(旧4年)	池田 治郷	35	山城 昌巳	49	森脇 敏和	63		77	

(注記) ・空欄の期は転居等で代表世話人の方がいらっしゃいません。

・代表者のご連絡先、およびお問い合わせは、以下のメールアドレスよりWEB事務局にお知らせ頂ければ幸いです。

E-mail: webmaster@kyokuryo-dosokai.com



平成18年度

旭陵同窓会東京支部総会

総会の盛会を祈る！！

東京支部44期 下関ゆかり会



祝



平成18年度

旭陵同窓会東京支部総会

旭陵ゴルフクラブ 東京支部会

会員募集！ 事務局 磯部 弘志(57期)

TEL 090-7416-9353



平成18年度 旭陵同窓会東京支部総会

総会の盛会を祈る！！

旭陵東京三三期生一同



祝 平成18年度
旭陵同窓会東京支部総会



盛会を祈っています！！

51期 東京地区同期会一同

昨年にご協力ありがとうございました



皆さんお元気ですか？

祝 平成18年度
旭陵同窓会東京支部総会

下関西高第47期生

有志一同



平成18年度
旭陵同窓会東京支部総会

三井不動産株式会社

多和宏三(48期)有志一同



平成18年度

旭陵同窓会東京支部総会開催

鹿島建設株式会社 有志一同

浅村忠文 (52期) 乙藤寛治 (52期)

坂本忠己 (52期) 栗田秀樹 (56期)

田村正樹 (57期) 村上泰雄 (58期)



山中動物病院



山中 俊樹 (51期)

〒751-0873 下関市秋根西町2-10-20

Tel 0832-56-5445

赤坂胃腸クリニック

AKASAKA GASTROINTESTINAL CLINIC

院長 村田 博司 (52期)

日本消化器内視鏡学会専門医

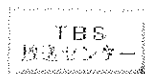
消化器内科・一般内科

東京都港区赤坂7丁目9-1 トーユー赤坂ビル6階

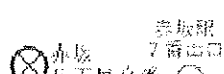
TEL: 03-3560-1123 FAX: 03-3505-6011

URL <http://www.hoyumedia.com/co/ag/akasaka/>

トーユー
赤坂ビル6F



赤坂胃腸
クリニック



一至乃木坂

赤坂通り

至山王下一

千代田線赤坂駅
7番出口より徒歩3分

医療法人 社団

じょうのクリニック

内科・外科・リハビリテーション科

院長 城野 憲史 (52期)

下関市豊浦町字賀 7444-2

TEL: 0837-76-5151 FAX: 0837-76-5050



森山病院

森山 秀樹 (55期)

森山 繁実 (52期)

和田 憲一 (52期)

下関市宮田町2-8-20

TEL: 0832-31-0781 FAX: 0832-31-5539

東京支部ホームページでお待ちしています



旭陵同窓会

インフォメーション	支部長挨拶	校友録
西高今昔	掲示板	総会の記録
校歌	会報	リンク

KYOKURYO ALUMNI ASSOCIATION
Copyright 2003 Kyokuryo Alumni Association. All rights reserved.

旭陵メールマガジン
メールアドレス登録

www.kyokuryo-dosokai.com

インフォメーション Information

[14] 平成18年度 東京支部総会のご案内(第2弾) - 2006/05/11(Thu)

7月29日の総会と懇親会の概要決定!!
総会・懇親会テーマ「あの日に帰りたい... 関中・西高がやってくる」
例年より多い14名の恩師招待!!
* 榎本先生(英語)
* 福田先生(数学)
* 岩田先生(地学)
* 松井先生(社会) 順不同
総会司会: 地元テレビ局TYSの有名アナウンサー 横溝洋一郎氏 (52期)
イベント例: 昭和49年の体育祭のビデオ等の大変貴重な映像を紹介
ぜひ同窓生にも声をかけていただき、多数のご参加をお待ちし
また、寄付、会報への広告についてもご協力お願い申し上げます。
寄付、広告についての詳細は添付ファイルを参照下さい。
総会・懇親会は
日時: 平成18年7月29日(土) 18時から20時
場所: お茶の水 東京ガーデンテラス(私学会館) <http://www.kyokuryo-dosokai.com>
です。

インフォメーション: 旭陵同窓会の皆さんへのお知らせ、イベントご紹介。
交友録: 同窓会、恩師、関中・西高に係わって来られた全ての方々から頂きました「懐かしい話」「郷土の話題」「近況報告」等、あらゆるジャンルでの寄稿をご紹介。
西高今昔: 西高の今と昔の写真を掲示しています。
掲示板: 任意のテーマで自由にご意見の交換、情報発信ができます。
会報: 過去と最新の会報はここでご覧になれます。
リンク: 西高、旭陵同窓会、下関に関するホームページへのリンク集。

平成15年11月より、東京支部のホームページを運用しています。
支部活動の広報ツール、また、支部会員相互の情報交流の場として活用していただき、同窓会活動を楽しんでいただければ幸いです。

【お願い】
メールマガジン配信のためのメールアドレスの新規登録を、出来るだけ多くの会員の皆様をお願いします。

【WEB委員会一同】
顧問 森脇敏和、伊村雄士 (49期)
委員 篠原清佳、大塚昌昭 (50期)
委員 小島健治、河村 修 (51期)
委員 武壽雄一郎、来島慎一 (52期)

17年度活動報告

- 東京支部総会の開催
開催日: 平成17年7月30日(土)
場所: 虎ノ門パストラル 本館1階「葵の間」
参加者: 合計252名(有料参加者246名/来賓6名)
- 常任委員会の開催
開催日: 平成18年3月2日(木)
場所: 新宿三井クラブ
議題:
(1) 平成17年度活動報告
(2) 平成17年度会計報告ならびに寄付・広告報告
(3) 平成17年度WEB委員会報告
(4) 新役員の選任
(5) 平成18年度活動予定
(6) 郵便局口座開設に伴う規約の一部改正

※常任委員会におきまして、次の通り新役員が選出されました。また、郵便局の振替口座開設のため支部規約の一部を改正いたしましたので、東京支部会員各位には、平成18年度総会にてご承認のほどよろしくお願いいたします。

支部長	白井 哲三郎 (34期生)	常任委員	貞国 哲雄 (37期生)
副支部長	木下 陽三 (35期生)		萩谷 誠美 (38期生)
顧問	田口 武平 (18期生)		山本 浩巳 (39期生)
"	安西 喬 (19期生)		高田 道治 (40期生)
"	村岡 二郎 (20期生)		竹内 俊文 (41期生)
"	須磨 幸蔵 (28期生)		土野 耕二 (43期生)
"	西本 正 (31期生)		梅田 晴正 (44期生)
"	吉井 溥 (32期生)		三宅 晴久 (45期生)
"	和田 一雄 (33期生)		栗明 純生 (46期生)
常任委員	有田 孝久 (21期生)		西 真慶 (47期生)
"	池田 治郷 (21期生)		上田 隆実 (48期生)
"	江川 洋 (24期生)		森脇 敏和 (49期生)
"	湊 和夫 (27期生)		門前 孝志 (50期生)
"	西村 明充 (28期生)		○ 有川 起巳 (51期生)
"	松永 幸雄 (32期生)	会計	山城 昌巳 (35期生)
"	山時 司 (33期生)	会計監査	吉川 順一 (42期生)
"	島津屋 龍 (36期生)		(○印は新任)

18年度活動計画

- 平成18年度東京支部総会の企画、準備作業及び開催
- 会報「旭陵倶楽部」第16号の発行
- 東京支部会員名簿のメンテナンス及びE-mailアドレスの整備
- 東京支部公式ホームページの運用管理及びメールマガジンの発行
- 本部、他支部との活動の連携と交流



【年会費振込のご案内】

この会費は、本会報の制作費および総会案内に関わる諸経費、郵送費等に使われます。
趣旨をご理解の上、同封の払込取扱票にて、お近くの郵便局でお払い込み下さい。

☆年会費: 2,000円

【ご寄付のお願い】

各界でご活躍の先輩諸氏のご好意とお力添えを賜りたく、お願い申し上げます。

☆寄付: 一口 5,000円より

みずほ銀行 八重洲口支店
普通預金: 2190897
口座名義: 旭陵同窓会東京支部

平成18年度 旭陵同窓会東京支部総会・懇親会のご案内

開催日：平成18年7月29日（土） 午後6時から8時（予定）（開場は午後5時30分）

会場：東京ガーデンパレス（私学会館） JR・地下鉄の御茶ノ水駅から徒歩5分

東京都文京区湯島1-7-5 （電話）03-3813-6211 <http://www.hotelgp-tokyo.com/map/map01.html>

総会・懇親会テーマ：「あの日に帰りたい・・・関中・西高がやってくる」

総合司会（予定）：TYS（テレビ山口）アナウンサー 横溝洋一郎氏（52期）

イベント：昭和49年の体育祭のビデオ等の貴重な映像紹介など

参加会費：一般会員 8,000円 同伴者 5,000円

20代会員 3,000円 学生参加 1,000円

東京支部年会費：2,000円

東京支部の円滑な運営のため、年会費のご協力をお願いします。総会にご参加の方は、当日会場にて参加会費と一緒に年会費をお支払い下さるようお願い申し上げます。

★当日のゲスト、来賓の方々（予定）★

1. 恩師

櫃本 光一 先生（英語）

福田 強 先生（数学）

岩田 忠泰 先生（地学）

松井 忠夫 先生（社会）（順不同）

2. 同窓会（本部）会長

前田 日出三 様

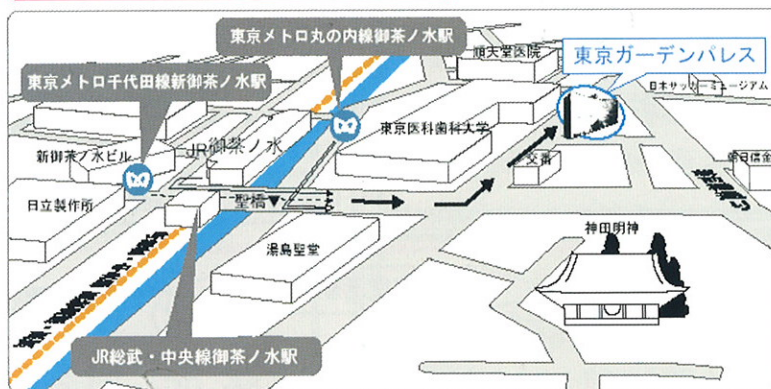
3. 同窓会（本部）幹事長

藤本 正三 様

4. 下関西高 校長

貞末 俊裕 様

御茶ノ水駅・新御茶ノ水駅よりのご案内（徒歩）



●当番幹事：第52期（昭和50年卒）

《編集後記》

思い起こせば、昨年の12月10日。例年になく寒気が襲う東京で当番幹事の52期生14名が準備会の初会合を開いたと覚えてください。

思い出話に花を咲かせながら、各人の役割分担から始まり、会場のセレクト、振込口座の開設、広告・寄付依頼、会報編集、来賓や本部への寄稿依頼、WEBの対応、名簿の整備などなど。普段やったことのない任務？に、いささかの戸惑いと不安を併せて抱えながら後先顧みず邁進する日々だったのです。

それでも会報の第1次入稿に当たっては、依頼した原稿・写真がほとんど手元に届くという快挙を達成。果たして我々の日ごろの行いが良かったのか、はたまた寄稿依頼先の諸先輩方が締め切りに厳格な紳士なのか？結果は会報第16号が完成した暁に、皆様方の“最後の審判”を仰ぐのみです。

それにしても今回の会報には、従来にない新企画がテンコ盛りです。まず、若手OBによる自主制作のページ。これは、73期生たちに依頼して1ページを任せてみました。どう斬新なのかは誌面（P10）で確認ください。また、西高卒業間もないOBたちにも大学生活の一コマをテーマにコラムを書いてもらいました。初々しい彼らの大学生活からご自身の青春時代に思いを馳せるのも良いでしょう。さらに、地元下関市役所の有志提供による“下関NOW”も下関の最新情報を提供してくれる貴重なページです。

さて、今年の旭陵同窓会東京支部総会は、「あの日に帰りたい・・・関中・西高がやってくる」をメイン・テーマに7月29日に開催です。今回はゲストに恩師の先生方4名をご招待し、各担当とも当日の総会・懇親会の進行にも趣向を凝らしております。懇親会では当時の貴重な映像をご覧いただく予定です。

当番幹事一同、皆様方のご来場を心よりお待ちしております。

（編集長西村 記）



《52期幹事団の面々。大学生OB、73期生の協力を得て。》